

られる。

「さしたり、言ったり」が、この段落における中心語句であることを考えると、こうした細かい点の注意も必要であった。

⑤ 第2段落の読みとり

- T₁₄ 第2段落にはどんなことが書いてあるでしょう。
- C₂₈ ①の答え。
- C₂₉ 図のようなはり紙があったらべんりだということ。
- C₃₀ もし、はり紙がしてあったらべんりだということ。(賛成)
- T₁₅ べんりだということは。
- C₃₁ はり紙がしてあると、はり紙のやじるしの方へ聞かなくても行ける。
- T₁₆ ②の最初に、「けれども」とあるが、どうしてかな。
- C₃₂ 前とちがうことを言っている。
- C₃₃ ①と反対のことを言っている。
- C₃₄ ①では、きいたりしたけど、②では、聞かなくても行けるから、
- T₁₇ そうすると、①で「さしたり、言ったり」して教えた人の代わりをなにがやってるの。
- C₃₅ はり紙です。
- C₃₆ はり紙のやじるしです。
- T₁₈ ②で大事なことばは、どれでしょう。
- C₃₇ はり紙。
- C₃₈ やじるし。
- T₁₉ そうだね。①で「さしたり、言ったり」したことの代わりをするのが、はり紙のやじるしだし、題目の「記号とことば」にも関係があるようだね。
- 大事なことばを見つげるとき、何回も出てくることばに気をつけてみることもたいせつだよ。「はり紙」や「やじるし」は何回でてきているかな。
- C₃₉ 「はり紙」は2回。
- C₄₀ 「やじるし」も2回。

ここでは、①の「さしたり、言ったり」して教えることに対して、「はり紙のやじるし」がその代わりをしていることを読みとらせる必要がある。そのためには、①と②は対立する関係にあり、それを表すことばが、「けれども」であることに気づかせようとした。(T₁₆の発問) それに対して、C₃₂やC₃₃は、一般的な答えをいっている。「けれども」の一般的なはたらかしは理解しているわけである。しかし、具体的にはどんな点で対立関係にあるのかということをとらえていたかどうかはわからない。C₃₄のようにとらえられればいいのではないかと思う。

ここで、「つまり……」の文をどのようにとらえているかをひとり調べのノートから見よう。

「②の大事な文はどれか。」という質問に対して、「つまり……」の文を選んだものは12名いた。その理由として、「つまり」がついているから、まえの方が後ろの方に大事な文があるから、まとめていようだからなどをあげている。これは、具体的な事柄よりも抽象的な事柄がまとめている大事な文だという意識が出てきたこと、接続語や段落の中の位置から大事な文を見つけようとしていることを表すものであろう。

一方、②の大事な文は、という問いなのに③の「このように……」をあげていた者が何人かいたことは、段落意識がまだ低いことを表すことにもなる。③が1文1段落であるために、一字下げを見おとしたのであろうか。

②の大事なことばの読みとりについては、「はり紙」「やじるし」を選ぶ者が多かった。

②では、そのほかに目ばしいことばがないので、自然、そこに落ち着いたのかも知れない。

⑥ 第3段落と第1・第2段落の関係

- T₂₀ 第3段落を短くまとめていうとどうなるかな。
- C₄₁ 物事を表すしるしを記号という。(賛成)
- T₂₁ これは、「記号とはどんなものか」というきょうの課題に対する答えだね。
- 「このように」ということばは、どこをさしているのだろうか。
- C₄₂ やじるしのこと。
- C₄₃ 前に出てきたことをまとめていっている。